

WASEDA

MECHANICAL

ENGINEERING

第41号  
OCT. 2014

## Newsletter

2014年(平成26年)10月1日発行

# 会長就任にあたって 現役バリバリOBへのメッセージ

機友会会長 浅川基男（昭41年卒）



このたび、100年以上の伝統ある機友会会長に就任しました。その任の重さに耐えうるかはなはだ心許ないです。が、就任した以上は精一杯機友会の発展に尽力する所存ですので、皆様のご協力を宜しくお願い致します。

### 1. 今までの動き

総合機械工学科の学生は1年生からほぼ100%機友会会員になります。一方、機械科学・航空学科では2年生から学科に所属するため、機友会の入会が30%と低迷していましたが、度重なる事務局からの広報により入会率が70%近くに向上しました。また、OBにおいても会費未納会員への働きかけ、会員のデーターベース更新、機友会サポート費の定着化が進んできました。

学生および公認サークル活動（エコランプロジェクト、宇宙航空研究会（WASA）、ニッセスキークラブ、ROBOSTEP、Waseda Formula Projectなど）の機友会からの支援が強化され、学生から機友会への期待も高まりつつあります。さらには、進学就職パネルディスカッション、工場見学、イヴニングセミナーなど各種行事も順調に推移しており、機友会活動の「見える化」が進行しております。この確実なる実行を今後とも大きな使命としております。

### 2. 現役バリバリOBとは

機友会会員は大きく区分して、学生・教員・シニアOB、そして現役バリバリOBから構成されております。現役バリバリOBとは産業界や学術機関でまさに今、中軸として仕事をしている卒業生を意味しており、もちろん教員も含まれます。現役OBは親睦団体である機友会は認めているものの「今それどころではない！」が正直なところでしょう。今までの機友会は学生・シニアOBへ十分とは言えないものの働きかけて参りました。しかし、いわゆる現役バリバリOBと機友会の接点は残念ながら少なかったと反省しなければなりません。

### 3. 現役バリバリOBとの交流

現役OBには見習い中の20代、独り立ちする30代、成功体験と責任を背負う40代、会社経営と専門職としての50～60代に区分できます。このような現役OBの資産を活用して、例えば年代ごと、あるいは年代を混在させて現役学生と討論する場を設け、「進路の悩み、働くことの意味、生き方、さらには人生観」を語り合えば学生にとって具体的に将来を考えるトリガーになるかもしれませんし、現役OBも20代学生の感性や考え方につれ、腰を抜かすほど驚くかもしれませんし、自分がいか

に固定観念に縛られていたかを見いだす場になるかもしれません。一言で言えば、双方向の「人間見学会」を機友会で企画したらどうでしょう。

また、学生の工場見学は学科単位・研究室単位で開催されていますが、機友会主催でひと味違った「仕事見学

## CONTENTS

会長就任にあたって	1～2
退職のお知らせ	2
機友会通信	3
機友会総会の報告	3～4
オリエンテーションの報告	5～6
イブニングサロンの報告	7
新任教員のご挨拶	8～9
研究室紹介	9～10
広告	10
機友会各賞発表	11
工場見学	12
機友会ゴルフコンペ開催報告	13
思い出コーナー	13～14
井口先生ご逝去のお知らせ	14
サポート費	14
会員訃報・事務局	15
事務局からのお知らせ	16

会」と銘打って、そこに働くOBの仕事ぶりを学生が見学し、「会社とは、仕事とは、やりがいとは」との疑問を投げかけたらどうでしょう。きっと会社の人事やリクルーターとはひと味違った生身の人間くさい手がかり、足がかりが得られることでしょう。

また、教員と現役が接する場として「単位とり直し・やり直し講座」を開催するのは如何でしょう。金属材料をもう一度やり直して勉強したい、流体力学・材料力学・熱力学も、さらには電気・物理・数学も、と必要に迫られている現役バリバリOBが大勢いるはずです。講習費用をポケットマネー程度とすれば、私費での参加も可能ですし、今さら会社では聞けない質問をすることも懇談会の場でできるでしょう。下欄にご案内を示しました。

同じような主旨で大学とOBを繋ぐ「技術難題駆け込み寺」の場を機友会が担っても良いでしょう。これが縁で教員・大学とのプロジェクトや共同研究

に発展する機会があるかもしれません。

#### 4. 「一波わざかに動いて万波隨う」

今まで機友会は親睦を中心に活動の場を提供してきました。毎年の行事もゴルフコンペ70人、ホームカミングデー50人、総会・講演会40人、イブニングサロン30人……卒業生を約2万人とすると、いずれも機友会OBの参加率は1%以下です。その中でも現役バリバリOBは限りなくゼロに近い状態です。「参加しても知らない人が多い、得られるものが少ない」と評価されているのかもしれません。機友会役員のボランティアに期待するのも限度があります。そこで理事会内に「現役バリバリOB対策WG」を立ち上げ、できることから実行することに致しました。

誤解を恐れず言えば今まで「役に立つ機友会」の視点が欠けていたと思われます。「面白い」、「刺激が得られる」、「自分の為になる」などの企画が増えれば、機友会に価値を認めるOBが多くなり、結果的に会費納入率も向

上するでしょう。「一波わざかに動いて万波隨う」の故事にならって、わずかではありますが一波を動かしてみようではありませんか！

ご協力をお願い致します。

以上

### 浅川基男・林洋次両先生 退職のお知らせ

本年3月31日で浅川基男先生、林洋次両先生が退職されました。

浅川先生は住友金属工業を退職し、1996年から18年間教育・研究に従事されました。また、林先生は1968年に助手に嘱任され、その後助教授・教授と大学一筋に46年間教育・研究に従事されました。長い間お世話になり有難うございました。

なお、両先生は名誉教授に推举されました。

(オリーブ記)

#### 機友会主催

### 第1回 現役学生の仕事見学会のご案内

機友会では、機械の歴史や仕事に触れ、今現役でバリバリ仕事をしている先輩と一緒に見学、討論をするツアーを実施します。仕事について、進路について、生き方について、大いにバリバリ活躍している先輩と語ってください。大きなヒントが得られることでしょう。

対象：学部3年以上の機航・総機の機友会会員学生50名（就職内定者はご遠慮ください）

費用負担：無し

日時：10月31日（金）9：20 電気の史料館入口集合  
(JR南武線尻手駅から徒歩20分)

行程：電気の史料館→JFE京浜製鉄所

9：30～12：00 電気の史料館の見学会（火力・水力・原子力発電設備、ガスターイン、タービンブレードなどの実物大装置など）

12：00～12：30 バス移動

13：00～17：00 JFE京浜製鉄所の仕事見学会：社員弁当試食体験→高炉・製鋼・圧延→発電所・廃プラスチックの高炉吹き込み等の環境対策技術

17：00～17：30 バス移動

17：30～20：00 現役バリバリ先輩と仕事を語る懇親会→解散（川崎駅前）

申し込み：機友会へE-mail waseda-kiyukai@ktb.biglobe.ne.jp（「見学参加」とし氏名・学籍番号・連絡先E-mail・機友会会員の有無を明記し、10月17日（金）までにお申し込みください。）

#### 機友会主催

### 単位とり直し講座、第1回金属材料の基礎と応用

機友会では、OBのための単位とり直し講座を開催します。本来なら学生時代にマスターすべき基礎科目ですが、会社に入って初めてその重要性に気がつくことがしばしばです。今回はもう一度学び直したいと思っている現役バリバリOBを対象に機械系教員が講座を開催します。奮ってご参加ください。第一回は金属材料の基礎と応用としました。

対象：機械系OB約20名

費用：懇親会費込みで会員3千円（会員未納会員5千円）

場所：早稲田大学理工キャンパス（教室は別途連絡）

日時：11月22日（土）13時～18時、18時終了後、同じ場所で質問懇親会を開催します。

担当講師：浅川基男名誉教授、鈴木進輔教授、堂谷講師ほか

内容：講師が当日レジメを用意します。内容は、強度と剛性、疲労、破壊、腐食、結晶構造、拡散、状態図、組織（相）、熱処理、構造用鋼、特殊鋼、ステンレス、非鉄金属など、事例（日本刀の不思議）・応用を含め、実践的な講義とします。

申し込み：機友会へE-mail waseda-kiyukai@ktb.biglobe.ne.jp（「講座参加」とし氏名・卒業修了年度・所属・連絡先E-mail・機友会会員の有無を明記し11月7日（金）までにお申し込みください。）

事前に講座の内容にご要望がありましたらお知らせください。

この度、機友会新会長として、浅川基男先生が就任された。浅川先生の会長就任の機会に、最近の理事会の雰囲気をお伝えし、機友会の今後について述べる。

毎回の理事会で話題となるのは、機友会の今後をどのように運営すべきだろうという点である。浅川新会長が述べておられるように、機友会は100年の歴史をもちその歴史は、継続してきた歴史の重みがある。しかし、理事会の論議でしばしば出てくるのは、機友会はOBの交流だけの機能でよいだろうか、という問いかけである。近年は、学生サークル支援、機友会論文奨励賞募集、パネルディスカッション支援等の活動の活性化を図り、機友会としての意欲を示している。加えてここ数年は、事務局や会員の皆様の努力により、少しずつ会費納入率も良くなっています。運営資金の改善も進みつつある。

毎回理事会の論議では、資金面のみならず、現役学生、現役の先生方、OB会員のネットワークが強固になり、学生から頼られ期待される機友会になるべきであるという願望が論点となっている。しかし現実には、OB理事の多い理事会では、現役学生や先生方との連携は十分ではないと認識されている。従来は多くの場合、浅川新会長や梅津副会長等に頼ってきた。

今回浅川新会長誕生で、会長の提案で、OBの範囲も広いので一步踏み込んで、現役バリバリOBと連携を強め卒業後の自分の姿に参考になるような取組としたらという提案がなされている。これについては、プロジェクトチームを作り早速具体的なアクションにつなげるように動いている。そして現役の先生にも働きかけの機会が増えて、学生と現役バリバリOBとのつながりが出来そうである。

また、企業に入って案外学生時代に学びが十分でなかった基礎習得について、“やりなおし講座”のような活動をやってみよう企画している。要は“役に立つ機友会”としてあらたな試みに挑戦してみようと新体制は船出している。

公認サークルへの支援活動も会員各位のご協力により、着々と成果を上げており、学生から感謝されている。活動への手ごたえも感じられている。

100年の歴史経過の中で、時代も変わり学生やOBの意識も変化している。その時代感覚をくみ取りながら、早稲田大学の機友会としての意義ある活動につなげて行きたいという気持ちは、毎回の理事会の雰囲気であることは間違いない。新しい取組に対してご支援をお願いしたい。

(石 太郎 (昭42年卒) 記)

## 2013年度 機友会総会報告

2014年5月24日（土）機友会総会が開催された。

13時30分より幹事会を開催し、理事会の理事任期満了につき事務局提案通り2014～2015年の新理事を選任した。続いて14時より通常総会を開催した。今年の司会は荻須理事が行った。まず大聖先生より、機友会相談役齋藤孟名誉教授のご逝去と生前の多大な功績についての報告があり、全員で黙とうをささげた。次に矢吹捷一会長から出席された会員へお礼の言葉の後、規定により会長を議長として議事に入った。会計担当の瀬在理事（昭和56年卒）が、前年度の活動報告、決算報告、次年度活動計画、次年度予算案を、内野監事（昭和42年卒）が会計監査結果を報告した。決算報告では、実質の収入が前年度にくらべ全体で約120万円の増加となり、今期は收支が

ほぼ均衡したことが報告され、提案通り承認された。決算及び予算案は次頁の表に示す。その後、全般に関する質疑応答に入り、会長から回答した。

休憩のあと、菅野重樹総合機械工学科教授の特別講演を行った。講演タイトルは「実体情報学博士プログラム」で、最新の早稲田大学の取り組みである。

特別講演の後、学生支援担当の石理事の司会で機友会公認サークルの活動報告を行い、エコランプロジェクト、宇宙航空研究会、ニッセスキーブラブ、Waseda Formula Project、ROBOSTEP 等の活動報告を行った。

17時50分に総会を終了し、その後会場を変え、生協カフェテリアで、懇親会を開催した。懇親会司会は岡部理



機友会総会の様子

事（昭和41年卒）が担当した。サークルの学生諸君も参加して、OB会員と現役学生の交流も進み、女子学生も加

わり大いに盛り上がった。懇親会では学生時代に帰ったかのように小澤先輩がはつらつと旗を振り、学生さんも前

に立って校歌斉唱でお開きとなった。

（荻須吉洋（昭40年卒）記）

## 2013年度 決算報告

### 収入の部

項目	予算額	金額実績	2013年度備考
前納分会費 (13年度分)	2,682,625	2,682,625	5,292,174 (14年以降)
当期納入会費 (13年度分)	1,900,000	2,344,025	
		1,227,250	OB会費
		1,116,775	学生会費
サポート費	1,000,000	925,500	※別途サークル 25,000
預金利息・雑収入	250,000	97,196	
		671	銀行利息
		525	郵貯利息
		58,000	総会懇親会会費
		28,000	イブナロ
		0	見学会
		10,000	広告代
収入計	5,832,625	6,049,346	
前期繰越金	652,030	652,030	
合計	6,484,655	6,701,376	

## 2012年度 決算報告（参考）

### 収入の部

項目	予算額	金額実績	2012年度備考
前納分会費 (12年度分)	2,766,936	2,766,936	5,505,525 (13年以降)
当期納入会費 (12年度分)	2,000,000	1,570,325	
		1,059,500	OB会費
		510,825	学生会費
サポート費	1,000,000	582,290	
預金利息・雑収入	250,000	211,474	
		603	銀行利息
		871	郵貯利息
		106,000	総会懇親会会費
		41,000	イブナロ
		63,000	見学会
特別収入	0	1,586,458	100周年記念事業戻り
収入計	6,016,936	6,016,936	
前期繰越金	655,549	655,549	
合計	6,672,485	6,672,485	

## 2014年度 予算案

### 収入の部

項目	予算額	金額実績	2014年度備考
前納分会費 (14年度分)	2,682,625		
当期納入会費 (14年度分)	2,400,000		
サポート費	1,000,000		
預金利息・雑収入	250,000		
収入計	6,332,625		
前期繰越金	652,030		
合計	6,984,655		

## 2013年度 決算報告

### 支出の部

項目	予算	実績金額	2013年度備考
事業費	3,650,000	3,840,288	
ニュースレター発行費	2,500,000	2,350,827	38・39号作成、発送
学生支援費	550,000	714,250	機友会サークル、各種手伝い
奨学金	50,000	144,000	ビジュアルシンキング、オリエンテーション
総会・会議費	250,000	249,365	総会、理事会、各委員会
行事・活動費	300,000	381,846	ゴルフコンペ、見学会、イブナロ
事務局費	2,736,000	2,590,036	
人件費	2,000,000	1,866,700	勤務体制短縮
交通費	330,000	386,380	
通信費	180,000	163,232	電話代、インターネット
事務用品・印刷費	150,000	65,099	機友会紹介パンフ、振込用紙
慶弔費	5,000	15,855	
データベース管理費	10,000	13,470	パソコンソフト
振込み手数料	60,000	79,300	(47,920) 郵便局 + (31,380) りそな
雑費	1,000	0	
支出計	6,386,000	6,430,324	
繰越金	98,655	271,052	
合計	6,484,655	6,701,376	

## 2012年度 決算報告（参考）

### 支出の部

項目	予算	実績金額	2012年度備考
事業費	3,630,000	4,005,248	
ニュースレター発行費	2,500,000	2,479,850	36・37号作成、発送
学生支援費	500,000	761,400	機友会サークル増額、オリエンテーション、
奨学金	80,000	9,000	ビジュアルシンキング
総会・会議費	250,000	307,009	総会、理事会、各委員会
行事・活動費	300,000	447,989	ゴルフコンペ、見学会、イブナロ、パネルディスカッション
100周年準備金	0	0	
事務局費	2,946,000	2,715,754	
人件費	2,100,000	1,938,750	
交通費	330,000	325,840	
通信費	180,000	180,875	
事務用品・印刷費	250,000	163,554	
慶弔費	20,000	0	
データベース管理費	5,000	28,245	パソコン調整修理
振込み手数料	60,000	66,490	(25,090+9,180) 郵便局 + (32,220) りそな
雑費	1,000	12,000	2会費重払い分返却
支出計	6,576,000	6,721,002	
繰越金	96,485	652,030	
合計	6,672,485	7,373,032	

## 2014年度 予算案

### 支出の部

項目	予算	実績金額	2014年度備考
事業費	3,650,000		
ニュースレター発行費	2,500,000		40・41号作成、発送
学生支援費	550,000		機友会サークル、各種手伝い
奨学金	50,000		ビジュアルシンキング、オリエンテーション
総会・会議費	250,000		総会、理事会、各委員会
行事・活動費	300,000		ゴルフコンペ、見学会、イブナロ
事務局費	2,736,000		
人件費	2,000,000		
交通費	330,000		
通信費	180,000		
事務用品・印刷費	150,000		
慶弔費	5,000		
データベース管理費	10,000		パソコンソフト
振込み手数料	60,000		
雑費	1,000		
支出計	6,386,000		
繰越金	598,655		
合計	6,984,655		

## 貸借対照表 2014年3月31日現在

借 方		貸 方	
科 目	金 額	科 目	金 額
預金		基金	6,325,798
新宿北郵便局	1,897,565	機友会基金	6,325,798
郵便振替分	5,666,980		
三菱東京UFJ銀行新宿通支店	266,374		
りそな銀行新宿支店	3,566,622		
みずほ銀行新宿西口支店	297,771		
現金	192,316	預り金	5,562,030
		入金済会費・サポート費	5,292,174
		繰越金	269,856
合計	11,887,828	合計	11,887,828

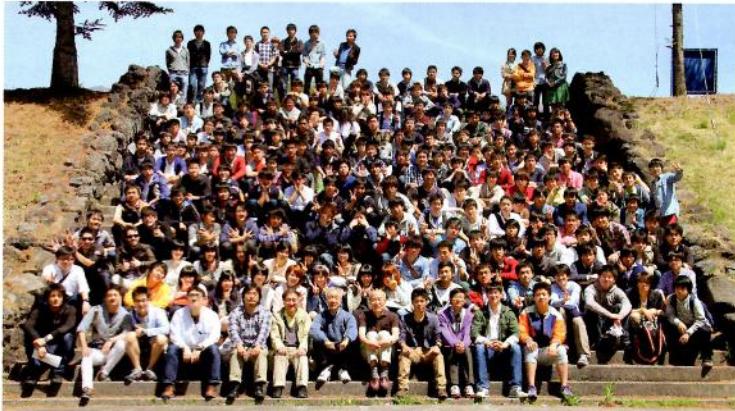
## 貸借対照表（参考） 2013年3月31日現在

借 方		貸 方	
科 目	金 額	科 目	金 額
預金		基金	6,325,798
新宿北郵便局	1,230,540	機友会基金	6,325,798
郵便振替分	6,774,400		
三菱東京UFJ銀行新宿通支店	101,869		
りそな銀行新宿支店	3,359,362		
みずほ銀行新宿西口支店	298,085		
現金	124,307	預り金	5,562,765
		入金済会費・サポート費	4,910,735
		繰越金	652,030
合計	11,888,563	合計	11,888,563

## オリエンテーションの報告

### 2014年度 総合機械工学科 1年生オリエンテーション報告

総合機械工学科 助手 堀内智貴



総合機械工学科 集合写真

総合機械工学科1年生オリエンテーションを、本年も5月10日（土）、11日（日）の日程で軽井沢セミナーハウスにて実施しました。10日朝4台のバスにわかれ西早稲田キャンパスを出発し、軽井沢セミナーハウスに向かいました。お昼頃セミナーハウスに到着すると、1年生からはセミナーハウスの広さや昨年度から新設された建物の素晴らしいしさに驚く声も聞こえてきました。

到着後は昼食をとり、各バス対抗のスポーツ大会を開催しました。1年生はサッカー、バスケットボール、ソフトボール、テニスの4種目から希望するスポーツに分かれて豪華賞品をかけて汗を流しました。本年は天候にも恵まれ、青空の下に1年生のスポーツを楽しむ声が響いていました。さらに、そこには教

員・助手およびTAも加わり普段の講義とはまた違った交流も行われました。

夕食後には毎年恒例になっているオリエンテーションが行われました。1年生は5部屋に分かれ、それぞれの部屋で各教員・助手から最先端の研究状況や本学科で学ぶ学問の意義、研究との関係性についての紹介など様々なお話を聞きました。話の中には本学科の学生として、そしてこの先エンジニアや研究者として社会に出ていくための心構えやアドバイスなども織り込まれていて、1年生は真剣な表情で食い入るように話を聞いていました。その後オリエンテーションに引き続き、お菓子やジュースを囲んでの懇親会も行われました。そこでは教員・助手およびTAと1年生が一緒になり、和やかな雰囲気の中で交流を深め

ました。1年生同士の交流が深まっただけではなく、オリエンテーションの内容を踏まえた教員との質疑応答や、先輩学生であるTAの経験談を聞くなど、話題は尽きることがなく時間はあっという間に過ぎてしまいました。

翌日は本年のオリエンテーションに参加した1年生、教員・助手、TA全員で集合写真を撮った後、軽井沢のアウトレットモールにて昼食やショッピングなどの自由時間を過ごし、帰京の途につきました。

本年度オリエンテーションは天候にも恵まれ、大きな事故や怪我などもなく無事終えることができました。また、1年生にとっては入学1ヶ月後の実施で、まだあまり話したことになった仲間と親睦を深めたり、先生方や助手、先輩学生の話を聞けるよい機会となったと思います。最後に、本オリエンテーションの実施にあたりご協力・ご支援をいただきました先生方、助手、TAの方々と機友会の皆様に、この場を借りて厚くお礼申し上げます。



夜のオリエンテーションで真剣に先生方の話を聞く1年生

### 2014年度 機械科学・航空学科 2年生オリエンテーション報告

機械科学・航空学科 教授 宮川和芳

2年生が機械科学・航空学科に配属されて間もない5月20日、21日の土曜日、日曜日に88名の2年生と17名の教員、アシスタントにより軽井沢セミナーハウスにてオリエンテーションが行われました。2台のバスに便乗し、朝9時に西早稲田キャンパスを出発、中央自動車道を経て山梨県大月市にある「山梨県立リニア見学センター」に向かいました。展示館でまず概要を知り、リニア実験線を

建物から眺めるとリニアモーターカーの時速500kmでの走行試験が行われていました。みんな写真を撮ろうと待ち構えていましたが目前を瞬時に走り去ってしまうため、なかなか良い構図の写真が取れませんでした。それでも、大きな音を轟かせて走行する様子は、とても迫力があり、1時間の滞在時間中に何度も実験走行を見学する学生がほとんどでした。中央自動車道に戻り1時間ほど走

り、インターチェンジを降りると、そこは、山の斜面に8万枚もの太陽光パネルを備え、10000kWの発電能力がある「米倉山太陽光発電所」でした。PR施設見学の後、少し小高い展望台に登ると、一面パネルで覆われ真っ黒な山肌の中に、白い山羊が何頭か優雅に草を食んでいました。パネルにかかる草を食べさせているそうです。丘の途中には、小さな池があり下のPR施設内の機械室

に水を導いていて雨水による水力発電を実施していました。再生可能エネルギーを理解するのに非常に良い施設でした。分単位のタイトなスケジュールの中、少しの時間をサービスエリアでの昼食に割きました。空腹を満たしてバスに乗車後約1時間分で、広い敷地にアンテナ群のある国立天文台野辺山電波観測所に到着いました。大小様々な円形のパラボラアンテナに圧倒されながら、高度な宇宙の探求ツールの見学にあつという間に1時間が過ぎました。そこから約1時間で、軽井沢セミナーハウスに到着しました。食堂での食事を終え、一堂に会した後は、教員による学生が“わくわくする話”的講話をして頂きました。佐藤先生を皮切りに、森野先生、手塚先生、柳尾先生、岩瀬先生、細井先生に若い頃の出来事や現在の研究などをお話し頂き、あつという間に時間が過ぎました。その後、教員、助教、助手、TAおよび2年生入り乱れての懇談会が行われ、学生も普段授業中には聞くことがで

きない話を熱心に聞いていました。日曜日午前中は、サッカー、ソフトボール、テニス、卓球などのスポーツを楽しみました。お昼頃に綱引き大会が行われ、勝ち進んだ屈強な学生のチームが教員チームを破って優勝しました。各種目、綱引き大会の優勝者が表彰され、みんなで集合写真を撮りました。昼食後は、セミナーハウスを後にして、信越自動車道を30分走り、世界遺産に登録寸前の富岡製糸場の見学を実施しました。既に世界遺産登録が公表されていたため、多くの観光客が訪れていましたが、2グループに分かれ説明員の方より詳細な説明を頂きました。明治時代の繊維の大量生産のための機械に感心しながら見学し、あつという間に2時間が過ぎました。日曜日の夕方で混雑している関越自動車道を通り、新宿に到着したのは、す

でに日が落ちた19時頃でした。

かなりタイトな行程の2日間でしたが、同じ学科になって2ヶ月目の新2年生は、新しい友人と寝食を共にすることで親睦を深め、また、機械科学・航空学科の先生方、助教、助手、先輩学生から多くの話しを聞くことができ、さらには、最先端の機械システムを知ることができ中身の濃いオリエンテーションであったのではないかと思います。最後に、オリエンテーションの実施にあたりご協力頂いた先生方、中心になって進めて頂いた助教、助手、TAの方々に、厚くお礼申しあげます。



機械科学・航空学科 集合写真

## 2014年度「基幹理工学部 新入生オリエンテーション」実施報告

基幹理工学部 教務主任 機械科学・航空学科 太田 有

2014年4月19日（土）、毎年恒例の基幹理工学部新入生オリエンテーションが、63号館2階の大教室と1階のレストラン「馬車道」を使って開催されました。基幹理工学部では2014年度から新たに「情報通信学科」が新設されて7学科体制になると共に、従来の学部一括入試から3つの学系別入試へと大きな変更がありました。今回の新入生は、学系別入試の第1期生に相当し、予め目標としている進級先学科を定めた643名が入学いたしました。機友会からは本年もこの新入生オリエンテーションに対して、相当額のご寄附を頂戴しており、ここではその御礼も兼ねて簡単な実施報告をさせて頂きます。

新入生は学籍番号によって2班に分かれ、オリエンテーション、学科紹介と懇親会を実施致しました。オリエンテーションでは、2014年度からの基幹理工学部の新しい教育制度、学科進級振り分け制度、副専攻制度や基幹共通科目の説明が教務主任から行われました。特に関心のある学科進級振り分け

制度や成績の算出方法に関しては多くの質問が寄せられるほどで、関心の高さが伺われました。その後、基幹理工学部に所属する7学科の説明が各学科15分であり、新入生が熱心に聞き入る姿が見受けられました。懇親会では、各学科の先生方、助教、助手、大学院生の先輩方が数多く出席し、各学科の説明を熱心に行っていただきました。新入生の諸君は当初、料理を食べることに夢中になり、余り会話を弾んでいないよう心配しましたが、次第に料理の残りが少なくなるにつれて身近にいる先輩方と話をするようになったようです。結果的には、終了予定時間を過ぎても熱心に話し込む新入生が数多く見受けられ、この新入生オリエンテーションを実施する意義と重要性を改めて思い知ることとなりました。

機械科学・航空学科に対する新入生のイメージは、圧倒的に航空宇宙分野が占めているようで、将来、航空宇宙分野で仕事をしたいという希望を持っている新入生が大勢いるようです。し

かし、その殆どの学生は航空宇宙分野に興味を持っていると言っても、具体的にどのような仕事をしたいのかという明確なビジョンがある訳ではなく、ただ漠然とその分野に憧れているという人が多いようです。学科としても、このような学生たちをどのように教育して社会へ送り出していくのかを真剣に考える時期に来ているように思います。従来の機械工学科の伝統のままに、ほぼ同じ教育カリキュラム、研究指導を行ってきた今までの学部・大学院体制を反省し、機械科学・航空学科としての将来性と、育成すべき人材像を明確に定め、かかるべく教育・研究体制を改善していく勇気が求められています。学系別入試の新規導入により、機械科学・航空学科は基幹理工学部の中で最も学生数の大きい学科になりました。学系IIから入学している新入生の約65%が機械科学・航空学科を第1希望にしています。このような状況を鑑み、弛まぬ努力が今こそ学科に求められています。

## イブニングサロンの報告

# 「機械工学が先進医療にどう貢献できるか」 ～日本の技術をいのちのために～

講演者：梅津光生教授（理工学術院 創造理工学部総合機械工学科）

## 経緯

第12回機友会イブニングサロンが3月18日に行われ、ここに報告をいたします。

今回は表題の梅津光生先生にお願いしました。表題の講演題名には副題が付いていて「日本の技術をいのちのために」とありました。冒頭梅津先生が、生命の分野に進むようになつたきさつを話されました。鉄道好きの先生は土屋先生が手がけていた、新幹線の融雪装置の開発の研究を望まれていました。当時の新幹線はテスト走行が温暖地（発祥はJR鶴宮駅）だったことから雪害についての実験はされなかつたそうで、開業後、関が原の豪雪で、大きな障害が発生し、土屋先生は、東海大学中山泰喜教授と融雪装置の研究開発を手がけられていたが、常々「これから必ず工学と医学が一緒になる時代が来る」、「物事の関係は有る・無しではなく如何にこじつけるかだ」と話されていたそうです。

しかし梅津先生が土屋研に入ったときは融雪装置は既に完成し実用化された後でした。土屋先生は、この時流体制御の研究は人体に大いに役立つ研究で、人体特に循環器系を流体回路で置き換える研究を提唱、梅津先生が承認した翌日から、東京女子医大に派遣されました。そこでは心臓に関する高度の研究がなされていましたが、毎日犬を実験で死なせてしまう現実に直面、何とか犬を死なせないで心臓の研究ができるものかと強く念じたそうです。この時点で梅津先生の博士論文の構想ができたそうです（1974年頃）。そして遂に「血液循環系の機械式流体循環シミュレーター」（梅津研）が完成しました。その中で人工心臓の考え方として心臓を全部人工式にする「全置換型人工心臓」、と本来の心臓を活かし

たまま、人工心臓を体外に置き、カスクエードに組み込む「体外型補助人工心臓」の2つのうち、体外型補助人工心臓が選択されました。この選択には心臓外科で世界的な権威者の榎原教授がアドバイスをされたそうです。

また、梅津先生は大阪大学第1外科の真鍋教授から声をかけていただき、大阪大学内に大規模な国家プロジェクトの新施設を建設するのでそこで働くようにお誘いを受けたそうです。土屋先生から真鍋教授にお会いしていただき、後押ししてくださったそうです。梅津先生28歳の時、勿論医学関係の研究施設なので早稲田関係は梅津先生、唯一人だったのです。昨年の台湾機友会の講演の時に真鍋先生に指導していただいた台湾の医師が出席されていて、梅津先生と大いに会話を弾みました。



（プレゼンテーションの一部）

## 先生の研究内容

1983年、国立循環器病センター人工臓器部補助人工心臓部門に移動されました。そこでの研究で50キロの体重のヤギは1分間に5Lの血液の循環量が必要だが、補助人工心臓方式はヤギの心臓への負担が減る事から回復が早い事を実証されました。そして梅津先生は部長に抜擢されました。また研究ばかりでなく所内で開催される運動会や盆踊り大会にも積極的に参加されました。またこのとき町工場の技術が大いに活かされ、鏡面に仕上げた流体接触面が血

液中の異物の認識を可能にしました。人工心臓は当時の東洋紡績（株）（現ニプロ社）が製作を手がけたそうです。

人工心臓開発はやがて体内埋め込み型となり、EVERHEARTと命名され、東京女子医大、早稲田大学、ピッバーグ大学の共同研究として、120例の重症心不全患者に組み込まれ、生存率の大幅な向上（80%以上）と退院後の医療費の節減に大きな効果が出たそうです（2013年9月現在）。また多くの企業が開発・設計・製造分野で活躍していることも大きな要因となっています。

工学的な面では、人工心臓装置の流体的な特性の一つに旋回渦流型（いわゆる渦巻き型）の補助人工心臓ポンプがあります。この補助心臓ポンプが定格回転数2000rpmの時、締め切り運転と定常運転点の間で流量が連続してほぼ直線的に、0から定格流量（20L/min、実際の血液流量は4.5L/min）まで変動することから、弱った心臓の収縮期と拡張期に、渦巻きポンプの特性がバイアスして、丁度健康な心臓から送られる血液流量と圧力（100mmHg）を確保する事が可能になったことが特徴となっています。

梅津先生の講演内容は奥が深く、先生には機友会として3回（台湾も含む）講演をお願いしていますがその時の聴講される方々に合わせて少しづつ内容を変えながらの講演に感銘を受けました。



（プレゼンテーションの一部）

（真下 進（昭40年卒）記）

## トピックス

### 機械工学科の先生が要職に就任されました

この度の人事異動で、基幹理工学部長に機械科学・航空学科教授太田有先生（昭58年卒）が、また、創造理工学部長に総合機械工学科教授菅野重樹先生（昭56年卒）が就任されました。

なお、山川宏先生（昭45年卒）は2010年から本年度まで、理工学術院長を務められました。機械工学科出身の先生方が活躍されています。

## 新任教員のご挨拶

### 流体構造連成解析による設計

高等研究所・総合機械工学科 準教授 滝沢研二

2011年4月、早稲田大学高等研究所（WIAS）に准教授として着任致しました。私の専門は、数値解析およびその工学的応用で、特に流体・構造力学を専門としており、授業は主に、総合機械工学科のフルードダイナミクスを担当しております。

私は、2005年3月東京工業大学において、数値解析の研究で博士（理学）を取得しました。その後、海上技術安全研究所にて、波浪中の船体応答の直接解析を行いました。船舶は巨大であり、海水は空気よりも動粘性が低いため、流体解析が難しく、造波抵抗と粘性抵抗というスケールの違う2つの抵抗を精度よく知ることは極めて難しい

課題でした。そこで、解析技術をより向上させるため、数値解析の応用の本場であるアメリカに渡りました。アメリカでは、流体構造連成による解析の大手であるライス大学のTayfun Tezduyar教授の元で、2007年からResearch Associateとして、2009年から2011年まで、Research Scientistとして学び研究をして参りました。数値解析において最も重要であることは、事象の第一事象を捉えることであり、すなわちモデリングの段階であるということを再確認することとなりました。

現在の主な研究は、これまでに培った数値解析技術を用い、宇宙工学、医学、エネルギー科学の分野への応用

です。実験の難しい環境、測定の難しいもの、実現の難しい状況への対応のアプローチのひとつとして、モデリング、解析手法、解析と一貫して研究しております。

早稲田大学では、熱心な学生に囲まれ、楽しく研究させて頂いております。これからも機友会の皆様方から勉強させていただき、そしてお役に立てるよう全力を尽くす所存です。よろしくお願い申し上げます。



### 「早稲田大学に戻ってきて」

准教授 梅津 信二郎

私は、早稲田大学理工学部機械工学科に1997年に入学し、学部を中澤研究室で過ごし、修士・博士・助手を川本研究室で過ごしました。その後、理化学研究所他を経て、2014年4月から再び母校に戻ってまいりました。諸先生方には在学中はもちろんのこと、学外転出中におきましても、直弟子がごとく可愛がって頂きました。また、岐路に立たされた時に、適切なアドバイスを賜りました。そして、早大機械のOBの方々には、後輩ということで、お会いした時に親切にして頂きました。諸先生・諸先輩方のご厚意に謝意を表します。

早稲田大学は私学の雄であるので、優秀なOBが各方面に多数いることを、転出中に身をもって知りました。18歳の春に、どうにか早大機械に入学できただけが、自分の人生において、これほどポジティブに作用するとは、当時は思っておりませんでしたし、想像すらできることでした。人知を超えた天の計らいに深く感謝致します。

私は、これまでに優秀な諸先生方・先輩方の御指導のもと、失敗しても再チャレンジできる立場でしたが、これからは一人でも多くの国際的に活躍できるWaseda人を育てるべき立場です。

諸先生方・先輩方が創ってこられた早稲田大学の伝統を守り、さらに発展させるために、精一杯努力して参ります。

次に、私自身の研究の話をします。学部時代は、中澤先生が考案された自由焼結法によるラピッドプロトタイピングに関する研究に従事いたしました。当時は、新しく、ユニークな加工方法があるのだなというくらいの認識でし



た。中澤先生のご退職に伴い、川本研究室に異動し、別のテーマである静電インクジェットに関する基礎的な研究に従事し、本インクジェットが市販のインクジェット方式よりも高粘性な液体を高画質に描画可能というメリットを有することを明らかにしました。学術的に新しいことに挑戦するので、論文は着実に書けるものの、広範な応用展開が見込める壮大なテーマに従事し、深く研究し続けることで、一角の研究者になりたいなと強く思い始めました。

ちょうどその頃インクジェットを利用したラピッドプロトタイピングに関する研究が注目されるようになりました。いわゆる3Dプリンタブームが始まりました。そこで、修士以降に把握した静電インクジェットのシーズと学部時代に身につけたラピッドプロトタイピングに関する知識を融合させることで、精密な3Dプリンタを独自開発し、バイオ分野や環境分野で使用する複雑・高機能なデバイスを製造する研究を開始致しました。まだまだやるべきことが

たくさんあるので、しばらくは3Dプリンタに関する研究を中心に行っていく予定ですが、将来的には早稲田発の新しい加工技術を提案したいという夢を持っております。定年まであと35年ありますので、しっかりと足元を固めながら、学生たちと研究を力強く推進していきたいと考えております。

最後になりましたが、早大機械関係者の皆様のご健在とご多幸、そして母校早稲田の永遠なる発展を祈るや切であります。

## 研究室紹介 鈴木研究室 *Suzuki lab.* ものづくりで世界へ、空へ、宇宙へ



機械科学・航空学科 教授 鈴木進補

「最近の学生は、……」とくれば、大体あとにはぼやきの言葉が続きそうですが、最近、身近な学生たちを見ていると、よくこんなことができるなと感心することが多くあります。自分が学生だった頃と比べてもポテンシャルの高い学生に多く会います。

また、「若者のものづくり離れ」が社会問題となっていますが、本学科、本研究室には、ものづくりの研究を志すやる気のある学生たちが集まっています。本学は、鋳造、塑性加工をはじめとする金属加工分野の研究・開発・人財育成において常に中核的な役割を果してきた長い歴史を持っています。

本研究室は材料プロセス工学研究室として、本学が誇る良き伝統を継承しながら、先端的な科学・技術の手法を取り入れ、科学的にものづくりを追求しています。学生たちは、材料・加工の基礎をしっかりと学びながら、機械・航空・宇宙工学への応用に発展させていきます。ものづくりを体系的に学んだ学生は、産業界・学術界からの期待も大きく、活躍の場が約束されています。多くの大学でものづくり分野の教

育が衰退している中、本研究室は、材料特性、溶解、凝固、鋳造、応用をカバーする国内外でも稀有な存在です。そのような状況でますます研究室学生の社会的貢献が強く期待されています。現在、教授、D1（1名）、M2（5名）、M1（5名）、B4（8名）、B3（8名）の体制で研究室を運営しています。

研究室では、「研究に厳しく」と「自由な雰囲気」を大切にしています。先輩・後輩・同期が日々和気あいあいと話しあいながらお互いのスキルを高め、チームワークを通じて生涯付き合える仲間ができるような環境づくりに努めています。

研究室では、学生が最大限、力を發揮できるように研究・教育環境を整えるよう努めています。限られた場所、資金、設備の基での研究ですが、国、財団からの研究補助金、助成金、企業各社との共同研究・開発、国内外の大学との共同研究などのサポートを得て研究を推進しています。また、学生たちは、NIMS、JAXA、ISAS、AIST、理研をはじめとした先端研究所での研修生制度を利用して、第一線で活躍する研究者の方々に指導を受けながら高度な研究技術を習得しています。

現在、「航空宇宙を使った材料研究」「航空宇宙・機械のため材料・加工」として、以下の研究テーマを推進しています。

◎方向性気孔を有するポーラスアルミニウムの作製と塑性加工による強化、◎溶湯発泡・セミソリッド発泡による発泡アルミニウムの作製と評価、◎ジェットエンジンターピンブレード用ニッケル基超合金の凝固組織形成メカニズム、◎リサイクルニッケル基超合金の高温特性と脱硫、◎金属ガラス



研究室合宿（追分セミナーハウス 2013.9）

の液体・過冷却液体における拡散係数の測定、◎合金液体の相互拡散係数測定、◎干渉計を用いた溶液中におけるソーレ係数の測定（国際宇宙ステーション（ISS）利用実験）、◎高強度伸線材の開発、◎高張力鋼板の応力緩和特性、◎高炭素鋼極細線の伸線加工、◎航空機リベット構造の構造減衰特性、◎Pd合金分離膜・ゼオライトを用いたISS用空気再生装置開発。

学生達は、それぞれのテーマを深く追求するよう日々切磋琢磨しています。そのため、学会発表のリハーサルには真剣に臨み、聴講する学生達からも鋭い指摘を受け、さらに詳細な回答を用意して本番に備えています。国際会議のリハーサルでは、学生間でも英語で質疑応答を行っています。これは日ごろ英語でゼミを行っている成果でもあります。英語でゼミというと多くの方に驚かれます。多くの学生にとっては、英語でのディスカッションは、はじめての経験ですが、身内のゼミでは

失敗しても恥ずかしいことではなく、むしろ学生で仲間内でのディスカッションで失敗経験を積み、徐々に上達して、国際会議本番に臨むのが学生達にとっても近道と考えています。これまで多くの学生が、国内学会、国際会議で高い評価を受け、賞を受賞しています。修士終了までに英語査読付き論文の投稿に挑戦し、欧文学術誌に掲載されています。学会では、単に自分の発表をして終わりというのではなく、他の研究者と討議（英語も含めて）を重視しているため、講演会でも研究室の学生は、よく質問をしています。

また、共同研究先とのやり取りは、学生が主体で行っています。学生でありながらも、一人の研究者とし責任を持って行動し、相手先からも信頼されていきます。

この夏は、M1の学生が、ポーラス金属の世界的な拠点として知られるベルリン工科大学Banhart研究室に1ヶ月間短期在外研究を行っております。

実験が思い通り進まない時は、現地の先生や学生とディスカッションしながら格闘し、問題解決をしています。

7月から、ISS「きぼう」にて「Soret-Facet」の実験運用を開始しました。ここでも本研究室の学生が主役です。早朝から夜まで、あるいは泊まりで筑波宇宙センターの実験運用管制室にてデータを取得・解析する日々です。ISS運用上の必要性から、迅速にデータ解析する必要があり、学生達は昼夜を問わず解析を進め答えを出し、連携する研究者、運用技術者から信頼される存在となっています。

最近は、非公式に一流企業から、「○○君は、是非うちに就職して欲しいんだけど」という相談も受けます。今後も、自分の考えをもって行動し、質問し、発言し、国際社会で活躍できる人財を輩出することが研究室の使命として活動していきます。サポート下さっている皆様に心より御礼申し上げます。

## 会員からの広告コーナー

広告をニュースレターに掲載することにより、広告費が機友会活動の活性化に貢献することが期待されます。今後も広告を掲載したいと思います。会社の紹介および活動を知りたい方にも、積極的なご利用をお願いいたします。

掲載ご希望の方は、事務局まで申し出てください。

（編集事務局 TEL:03-3205-9727）

### リード国際特許事務所

代表弁理士 **北村 周彦**（昭55年卒）

取扱業務：国内外の特許、実用新案、意匠、商標の出願代理、調査など。弁理士は総勢9名で、機械、制御、ソフトウェア、通信、電気、電子等の広範囲の技術分野に対応可。米国、欧州、中国、台湾、韓国等の外国出願も対応可。相談無料。お気軽にお問合せ下さい。

住 所：〒102-0072

東京都千代田区飯田橋4-1-1  
飯田橋ISビル8F

T E L 03-3265-6594

F A X 03-3265-6595

ホームページ

<http://www.kitamura-pat.com/index.html>

E-mail chikahiko@kitamura-pat.com

### 株式会社 新農林社

代表取締役社長 **岸田 義典**（昭40年卒）

取扱業務：農機新聞、新エネルギー新聞の発行、創業昭和8年。機械化農業、AMA（Agricultural Mechanization in Asia, Africa, and Latin America）などの出版

住 所：〒101-0054

東京都千代田区神田錦町1-12-3

第一アマイビル

T E L 03-3291-3671

F A X 03-3291-5717

ホームページ

<http://www.shin-norin.co.jp/>

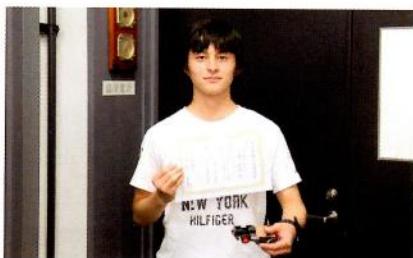
E-mail ama@shin-norin.co.jp

機友会奨励賞は、総合機械工学科1年生の授業「ビジュアルシンキング」で実施した「往復移動ロボットコンテスト」において、上位3件ならびに優れた技術とユニークなデザインのロボットを選び、賞状および賞金を授与しました。本コンテストでは、スタート地点から折り返し地点まで3[m]の距離があるコースにおいて、ロボットは折り返し地点まで自動的に進んで向きを変えてゴールへ戻ります。ロボットにつけた印がゴールラインに達するまでの所要時間と、その地点におけるスタート地点からの差の小ささを競いました。ロボットのサイズや使用する電池などに関するルールに従い、配布した模型用モータを利用して学生が一人一機を作りました。

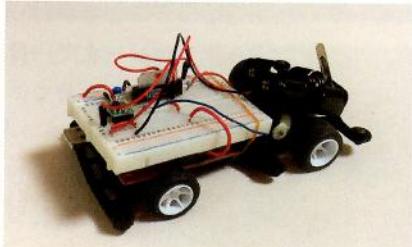
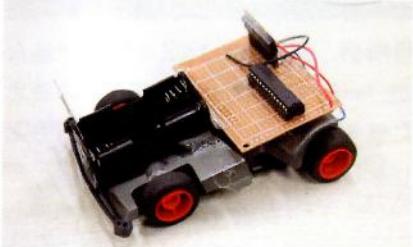
## 2014年7月1日 ビジュアルシンキング 往復移動ロボットコンテスト成績優秀者

順位	学籍番号	名前	成績	順位	学籍番号	名前
1位	1X14B017	上原 悠嗣	ずれ無し、8.46秒	技術賞	1X14B014	井上 遼哉
1位	1X14B062	篠崎 駿	ずれ無し、9.62秒	技術賞	1X14B113	野村 勇太
1位	1X14B076	杉山 拓克	ずれ無し、11.81秒	デザイン賞	1X14B140	水村 優治郎

## &lt;受賞者によるメカニズムの説明&gt;



1位：1X14B076 杉山 拓克

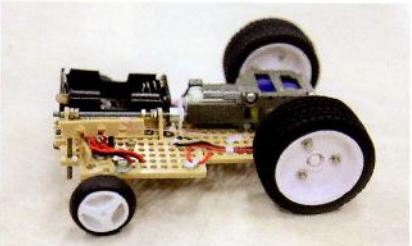


1位：1X14B017 上原 悠嗣

マイコンとモータードライバーによって制御されています。ノイズ防止にコンデンサもつけました。制動時間の考慮が大変でした。

1位：1X14B062 篠崎 駿

マイコンを使用した。マイコンに組み込まれたプログラムによって、所定の時間が経過するとモーターが逆回転する。



技術賞：1X14B014 井上 遼哉

この機体は車軸とカムがギアボックスを介してつながっており、車軸が3m分回転するとカムが回転して逆転スイッチを押すようになっています。

技術賞：1X14B113 野村 勇太

モーターの回転に連動して、ナットとネジシャフトを利用した送りネジが稼働し、所定の距離で反転スイッチが切り替わる。

デザイン賞：1X14B140 水村 優治郎

# 工場見学

新潟原動機株式会社 太田工場

今期は3月13日（木）新潟原動機株式会社太田工場を見学した。矢吹会長の知人である同社技術顧問伊藤恭祐氏のお世話で、見学できることになり、当日は伊藤氏も東京から同行していただいた。会社では生産センター業績管理グループ長滝沢隆行氏が案内された。今回の参加者は16名だった。現役学生諸君は春休み中のこともあり参加できなかったのは残念であった。

新潟原動機は昨年はパネルディスカッションにも参加していただいた。

同社は、新潟鉄工所の原動機部門を継承して2003年に設立された新しい会社であるが、事業そのものは1919年（大正10年）我国初の舶用ディーゼルエンジンを開発してから一貫してディーゼルエンジンを生産しており、長い歴史を有する我国有数のメーカーである。

会社の概要の説明を聞いたあと、工場見学に向かった、16名をまた2班に分け少人数で現場を案内してもらった。

大きな舶用ディーゼルエンジンを鉄の塊から作りだすプロセスは、まさに機械加工の粋が尽され、機械工学の本流そのものである。我々機友会メンバーは、この工場にぞくぞくするような感動を覚えた。たとえば、巨大なくねくねしたクランクシャフトを旋盤加工するために部材全体を回して加工していたのには驚いた。また、自動車に比べると巨大なカムシャフトが加工されて出来ていくプロセスも難しい加工であると思うが、たやすく加工されていた。また、Zペラという製品がある。これは、エンジンは固定したままスクリューは360°自由な方向に向けて回転する動力装置で、タグボートに必要な推進システムであるが、受注をこなすため、フル生産状態であるとの事だった。エンジンからスクリューまで一貫生産できる同社の強みが発揮されている。

見学が終わった後、開発部門の方に、開発中のエンジンの環境技術につ

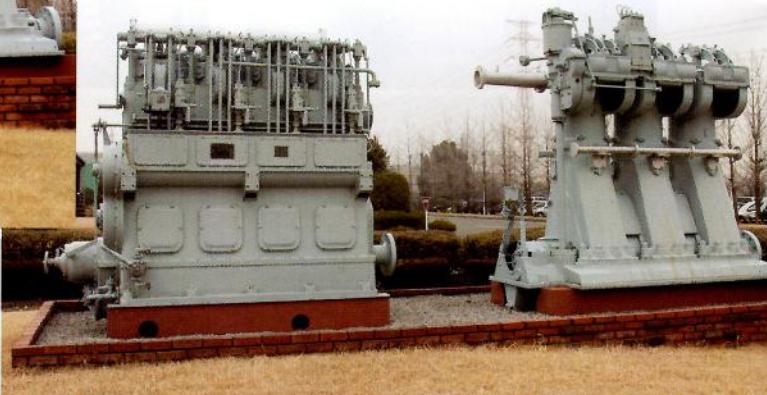
いて説明をしていただいた。資料をたくさん用意していたが、見学が長くなり、帰りの時間は決まっているため、一部しか聞くことができなかつたのは残念であった。

舶用・陸用高速ディーゼル機関を国内で生産していることは素晴らしい、また世界のシェアでも頑張っているそうである。歴史の長いディーゼルエンジンであるが、熱効率では、内燃機関としてはこれに勝るエンジンはまだない。しかし、まだまだ環境性能の向上、熱効率の向上、出力の向上、価格の低下等、求められることは際限がない。その最初の頃のエンジンが正面玄関の前に展示してあり、我々はその前で記念撮影をし、新潟原動機株式会社の一層の躍進を信じて帰路についた。場所柄、懇親会の設定は難しかったが、一部の参加者は、東武鉄道の特急に乗り、終点浅草に着いてから打ち上げをした。

（荻須吉洋（昭40年卒）記）



初期のディーゼルエンジンの前での記念写真



初期のエンジン  
(注 左：昭和初期 段用4気筒200馬力 右：大正年間 舶用3気筒75馬力)

# 機友会 ゴルフ コンペ開催報告 春大会

## 第32回機友会ゴルフコンペ開催報告

昭和49卒 山本 光大（小泉研）

平成26年5月16日（金）晴天無風のゴルフ日和のもと、川崎国際生田緑地ゴルフ場において、OUT8組、IN8組、総勢64名の近年にない参加者を得て開催された。私のゴルフ人生は、闘いそのものなのです。50歳半ばから大腸がんになり、肝臓に転移し、築地の国立がんセンターにて手術を受け、九死に

一生を得ました。

一時的には治ったものの、がんはそう簡単ではなく以来、抗がん剤治療を続け、体力、スコアは年々衰えるものの、病気と出来るだけ末永く付き合うことを心掛けています。

という訳で、私のモットーは、「1日でも長生きし、1回でも多くゴルフをや

る」を生きがいとしています。今回のスコアは95も叩いたのですが、隠しホールのHCに助けられネット66.2で優勝してしまいました。



総勢64名のゴルフコンペ



優勝した山本光大さん

グロスで良いスコアで回られた方に誠に申し訳ありませんでした。

今回の大会で特筆すべきは、何と浅川基男先生が16番ホールでホールインワンを達成されたことです。32回の機友会コンペで初めての快挙です。心からお祝い申し上げます。

最後に機友会コンペは、機友会交流会として実施しており、機友会支援活動の一環としても役立たせております。是非若い人の参加をお待ち致します。

## 浅川新会長ホールインワン達成 !!

機友会ゴルフも回を重ねて、今回は第32回になりました。メンバーも少しずつ若返っています。この度、機友会ゴルフコンペ始まって以来のホールインワンが出ました（16番ホール）。出した人と言えばこの3月31日まで機械科学・航空学科教授だった浅川先生です。

肩の荷が下りて、力も入らずリラックスしてゴルフをしたのでしょうか……。

誠におめでとうございました。先生から機友会に気持ちとして多額のご芳志をいただきました。機友会からは、右側写真の記念品を贈呈致しました。

新会長着任に花を添えるかたちになりました。

（オリーブ記）



## 思い出コーナー

~心のふるやすと機友会~

昭46年卒 金尾雄二

2013年10月6日（1年前の話で恐縮ですが）に渋谷のど真ん中の高級料亭

（金井君の小学校同級生が経営）に、同期の金子俊治君、加藤泰彦君、オリーブ（佐々木洋子さん）、下条真一君、大谷雅美君、横山文明君、高田和俊君、藤田貞雄君、片山義雄君、金井雄二君と私が、白血病後、元気になったオリーブの第1回快気祝いも兼ねて、3年ぶりに集まりました。

前回は、奥村先生（当時93歳）ご夫妻を囲んで成城学園の先生がなじみの寿司屋に集まりました。ノートパソコンをお持ちになった奥村先生は、ご自分の研究成果（振動遮断接続機構、早

稻田大学技術シーズNo.TLO 2000-002に詳細記載）のシミュレーション結果をご披露してくださったのには驚きました。それは、あくなき探究心を持ち続けておられることへの驚きと、その先生に教えていただいた者としての喜びと、その熱意を受け継げていない自分のふがいなさへの思いの表れでした。その理論を実証してくれる研究者がいないとおっしゃっていたので、私の日立製作所時代の友人（慶應義塾大学の下郷研究室卒業）に頼んで会社の教育機関の卒論テーマに取り上げて実験し

てもらい、その成果を奥村先生にお送りできたので少しあは恩返しができたのかなと不肖の弟子は思っています。(自分では何もしていないのですが……)

前回集まつた時は、奥村先生が奥村研卒業生名簿をもって来られて、同期の一人一人の消息を尋ねてくださいました。しかし、その名簿にはない人もいましたが、ちっともかまわざ親しく懐かしんで下さいました。そう、奥村研というか奥村先生のもとに集まる人の特徴は垣根がないということで、今回も奥村研卒業生名簿はない人が3人(オリーブを含めると4人)集まりました。

こういう集まりはどうしても昔話に終始てしまいがちですが、奥村研?の人々は、これから的人生に希望を持って日々生き活きと生きてそれぞれの世界で個性を発揮している話が次々に出てくるので「すばらしい!」と感じました。現役で会社の責任を担つて奮闘している人、これまで

の知識・経験を生かして仕事を続いている人、これまでの人生とはまったく違った分野での社会貢献をめざしている人、地域の人々の生活向上のためにコミュニティ形成に力を注いでいる人、大学の部活のサポートに力を注ぎつつ自分の夢を追い後輩の指導にあたっている人、自分の世界を究めんと自由に生きている人、そして命にかかるような病をも克服してなお機会友会のために生涯を捧げている人などなど……。



奥村先生(93歳)のパソコンによる講義に聴き入る教え子達(2010.7.4)

奥村先生がご高齢なこともありご出席いただけなかったことは残念でしたが、お元気であらゆるシーンで探究心一杯の人生を日々送られることを祈念し、オリーブの第2回快気祝いをすることを約束して、奥村研?の人々はそれぞれの世界でのさらなる飛躍をめざして渋谷の街に出て行つたのでした。



富士山と河口湖をバックにした理工スポーツ祭ボートレース3位入賞時の集合写真(1970年)

## 井口信洋先生 ご逝去のお知らせ

本学科の教育・研究にすばらしい成果を残された機械工学科名誉教授井口信洋先生が2014年8月26日ご逝去され

ました。享年91歳。葬儀にはお花を供えし会長が参列いたしました。本号ではお知らせのみで、先生を偲ぶ記事は

次号に掲載いたします。



## サポート費のご協力有難うございました

2014年2月25日より8月31日の間に下記の方々より総額718,000円のサポート費のご協力をいただきました。また、学生支援として指定された公認サークルに564,000円のご協力をいただきました。厚く御礼申し上げます。サポート費の運用については、特に学生に対し、サークル活動、オリエンテーション支援、また奨学論文賞など今年度より更に分野を広げ充実した支援を計画しております。今後とも皆様方の更なるご支援・ご協力をお願ひいたします。

### サポート費協力者

卒年	氏名	卒年	氏名	卒年	氏名	卒年	氏名
昭和21年	吉森 信夫	昭和31年	竹山 酒	昭和34年	木内 浩	昭和47年	岡林 正和
昭和23年	村上有志知	昭和31年	玉井 壽	昭和34年	谷井由紀夫	昭和52年	小林 明
昭和23年	山内 政勝	昭和31年	増田 昌士	昭和34年	山口富士夫	昭和53年	上村 彰
昭和25年	小沢 秀夫	昭和32年	江口 昌典	昭和35年	鈴木 良治	昭和53年	飯田 繁延
昭和26年	増田 次郎	昭和32年	小島 一郎	昭和35年	関 栄一	昭和53年	金田 修嗣
昭和26年	渡部 陽	昭和32年	佐伯 俊造	昭和35年	根津 重雄	昭和55年	倉田効市朗
昭和27年	川上 幸作	昭和32年	高橋 進	昭和35年	翠川 隆也	昭和58年	阿部 徹
昭和27年	細井 健司	昭和32年	笹本 久士	昭和36年	内藤 重信	平成 5年	菊地 義典
昭和28年	小田垣徳幸	昭和32年	福田 尚	昭和36年	堀 信夫	平成14年	舟越 義浩
昭和29年	印東信太郎	昭和33年	相川 義治	昭和37年	植田 直義	平成22年	愛田 陽生
昭和29年	八田 達雄	昭和33年	大淵 昭	昭和37年	海宝 雄一	事務局	佐々木洋子
昭和30年	石川 吉通	昭和33年	鍛山 一郎	昭和38年	星野 邦男	土屋研OB	堀 信夫
昭和30年	鈴木 孝	昭和33年	近藤 芳夫	昭和41年	浅川 基男	匿名	(敬称 略)
昭和30年	藤田 宏	昭和33年	佐藤 智士	昭和41年	真下 芳隆		
昭和31年	井上 義祐	昭和33年	中沢 和之	昭和46年	入山 正樹		

### 公認サークル支援サポート費協力者

卒年	氏名	卒年	氏名	卒年	氏名
昭和23年	村上有志知	昭和40年	眞下 進	昭和53年	小川 博
		昭和41年	眞下 芳隆	昭和53年	堀合 隆之
		昭和42年	矢吹 捷一	昭和55年	川村 宜之
		昭和44年	永島 覚	昭和55年	吉岡 正憲
		昭和45年	石浜 和義	昭和56年	山崎 一彦
		昭和46年	広瀬 武貞	昭和58年	阿部 徹
		昭和47年	小田垣徳幸	昭和60年	横尾 正宏
		昭和48年	山本 正晴	昭和61年	中村 政人
		昭和49年	吉田 晴信	昭和63年	奥村 盛
		昭和50年	鈴木 勝美	平成4年	高田 智治
		昭和51年	塩安 真一	平成5年	菊地 義典
		昭和52年	宮川 忠久	平成22年	愛田 陽生
		昭和53年	井古田忠雄		(敬称 略)
		昭和54年	堀 浩治		
		昭和55年	大槻 雅彦		
		昭和56年	五月女昌弘		

## 会員 計 報

2014年2月以降 下記の会員の方々の計報について連絡がありました。

ここに、謹んでご冥福をお祈りいたします。 (敬称略)

2014.9.22現在

卒 年	学歴	氏 名	逝去年月日	卒 年	学歴	氏 名	逝去年月日	卒 年	学歴	氏 名	逝去年月日	卒 年	学歴	氏 名	逝去年月日
昭和20年	専機	池 節男	2005.4.18	昭和24年	専運	松村 博	2012.8.22	昭和31年	一機械	山越喜久男	2013.8.10	昭和40年	修士	二宮 克之	2014.5
昭和20年	専機	猪股 晴吉	2014.3.20	昭和24年	専運	山崎 茂	2012.11.25	昭和32年	一機械	西村 健	2012	昭和41年	一機械	笛島富二雄	2013.5
昭和20年	旧機械	大野 正光	2013.10.11	昭和27年	二機械	内山 裕一	2012.5.31	昭和34年	一機械	新井 克	2014.5	昭和44年	機械	梅山 嘉夫	2013.4
昭和21年	旧機械	野村 智一	2012.9	昭和27年	二機械	辛島 舞喜	2013	昭和36年	一機械	山田 猛夫	2013.12.14	昭和45年	機械	大浦孝太郎	2013.5.9
昭和22年	旧機械	井口 信洋	2014.8.25	昭和28年	一機械	加納 節三	2012	昭和38年	一機械	横山 清	2013.10.6	昭和47年	機械	村居 直昌	2008.12.7
昭和22年	専運	小野 芳郎	2013.4.28	昭和28年	一機械	杉山 貴一	2013.10.21	昭和40年	一機械	相沢(及川)洋	2012	昭和53年	機械	斎藤 豊	2013.6
昭和23年	旧機械	野村 公	2006.6.11	昭和29年	二機械	印東信太郎	2012.1.31	昭和40年	一機械	川口 哲夫	2014.1.2	平成12年	機械	立平 靖人	2011
昭和24年	専運	川瀬 昭三	2013.11.18	昭和31年	一機械	大野 慎	2013.11	昭和40年	一機械	本城 重治	2014.3.23				

### 機友会事務局 メンバー交替

退任 浅井和宜さん（昭30年卒） 10月より機友会相談役に就任

荻須吉洋さん（昭40年卒） 機友会理事は継続

佐々木洋子さん（元職員） ニュースレター編集顧問

新任 神原隆之さん（昭52年修士）

大貫正雄さん（元職員）



理工校内中庭

機友会の皆様、始めまして。9月より事務局のお手伝いをさせていただきましたことになりました昭和50年（52年修士）山根研卒の神原隆之です。卒業当時の大学内の推薦状獲得戦線に乗り遅れたときに、機友会事務局から紹介してもらったことがきっかけで就職先も決まり、化学メーカーで34年間「ものづくり」を中心に歩んできました。その会社を紹介してくださったのが、当時の愛称「オリーブ」（佐々木洋子さん）です。私にとっては私の人生を左

右したとも言える最も重要なアドバイスだったのですが、ご本人はすっかり忘れていたようでした…。ある飲み会で佐々木さんに酔った勢いで「定年したら機友会手伝ってよ！」と言われたことがきっかけで今に至っております。

先日、機友会総会に参加した際に、学生さんの色々な活動を理事の方々に熱く報告している姿を見ましたが、山根研の合言葉「知力・体力・忍耐力、そして迫力」で勉強（？）にしろ遊び（？）にしろ、山根研メンバー全員が学

生生活を謳歌していたときのことを見出しました。

これからは、事務局として学生さん・機友会・OBの方々に恩返しをするつもりで、皆さんのサポートをしていきたいと思いますので、ご協力のほど宜しくお願ひいたします。



神原隆之氏

初めまして、大貫と申します。教育学部社会科卒（昭51年）です。卒業と同時に大学に奉職し、本年5月に職員生活にピリオドを打ちました。在職中から、オリーブこと佐々木洋子さんから「早く退職して、事務局の仕事をしない」とありがたいお声をかけられていたところ延び延びになっておりましたが、退職が実現し、この7月から事務局のお手伝いをさせていただいております。栃木県野木町から週2日ほどの出勤ですが、どうぞよろしくお願ひいたします。

在職中は理工での仕事経験がなく、機友会の存在すらも知りませんでしたが、佐々木さんのお話から100年を超える歴史と伝統をもつ組織であることを知り、また、総会等で理事、監事の皆様方の機友会を盛り立てていこうという熱い想いに触れ、事務局の一旦を担っていくことに少なからぬ責任を感じている次第です。

機友会はOB間の親睦促進もさることながら、早稲田でロボットをつくってみたい、フォーミュラカーに取り組

みたい、鳥人間コンテストにチャレンジしたい、そんな夢や希望を持った学生を応援していくことも知りました。

事務局の方々が交替しつつある中少しでも早く戦力になれますよう努めてまいる所存ですので、ご指導ご支援のほどよろしくお願ひいたします。



大貫正雄氏

## 事務局からのお知らせ

### 住所・E-mail等の変更のあった時にはご連絡ください

機友会事務局では、会員約25,000名の方々のデーターを管理しておりますが、約4割の方々の情報が把握されていません。また、事務局から発送する郵便物が受取人不明のため返送されることがたいへん多くなっています。

たいへんお手数ですが、住所、勤務先、E-mail等の変更が生じた時は事務局までメールまたは、お電話で知らせくださいとお願いいたします。

### 機友会ホームページをご覧ください

事務局からのお知らせとして、総会・見学会・イブニングサロン、その他催事等のご案内、また発行済のニュースレターを掲載しています。是非ご覧ください。

<http://www.kiyukai.mech.waseda.ac.jp>

### 第33回 機友会ゴルフ大会開催のお知らせ

日 時：平成26年11月14日（金）

集合7：45 スタート8：15

会 場：川崎国際生田緑地ゴルフ場

費 用：20,000円（プレー費16,000円 参加費4,000円）

申込先：機友会事務局

TEL/FAX：03-3205-9727

E-mail：waseda-kiyukai@ktb.biglobe.ne.jp

準会員として奥様やご家族の参加も可能です。また、正会員でも親睦会員として、競技とは関係なく体力とご相談の上マイペースでの参加も可能です。

（親睦会員の参加費は2,000円です。）

### 第34回早大モビリティシンポジウム開催

本年度の第34回早大モビリティシンポジウムを下記のよう開催します。

詳細が決まりましたらHP等でお知らせします。

多数ご来場くださるようお願い申し上げます。

記

日 時：平成26年11月15日（土） 10:00～17:00

場 所：早稲田大学理工学部57号館 2階 202号室

懇親会：シンポジウム終了後開催

### 編集後記

今回は、機友会の会長が矢吹会長から浅川新会長に変わりましたので、新会長就任の抱負を中心に編集しました。新会長の方針の下、新たな企画も織り込まれております。また、機友会活動も会員皆様のご協力により充実が図られております。多くの活動内容の編集に苦労もありましたが、充実した内容になっておりますので、ぜひご一読下さい

（編集担当理事 石 太郎）

### 会費納入についてのお願い

#### 会費納入について

機友会の活動は皆様からの会費を財源に運営されています。会費納入について、是非皆様のご理解、ご協力をいただきたくよろしくお願ひいたします。

会費は1年間分 3,000円 4年間分 12,000円

会費納入については郵便局または下記銀行からお振込みください。

#### ※銀行からの場合

三菱東京UFJ銀行 新宿通支店 普通口座 №2460079

お振込みの際は同姓同名の方がいますので卒年・氏名・フリガナを必ずご記入ください。

#### ※郵便局からの場合

ニュースレターに同封されている郵便局の振込用紙は全員の方に同封していますが、昭和34年以前卒業の方、当年度まで会費の納入の方、及び銀行口座振替の方にはサポート費と印字した振込用紙を同封しています。どうかご支援を賜りたくよろしくお願ひいたします。

#### ※当年度から会費を払う場合

今まで会費納入されていない方、過去何年か納入されていない方が遡って納入される方がありますが、会費を遡っていただく規則がありません。

気を使っていただいて有難いのですが、当年からの会費として納入をお願いいたします。

#### 会費納入の自動引落し窓口を開設しています

会費納入に振込みの手間がかからない銀行口座自動引落しの窓口を設けています。

会費は1年間2,750円と少しだけお安くなっています。

ご利用される方は申込み用紙をお送りしますので事務局までご連絡ください。

銀行口座自動引落しは毎年4月18日（休日の場合は翌日）となります。たとえば、5月に申込みをいただいたても、翌年の4月からとなります。

#### 機友会事務局

月、火、木、金の10:00～16:00

伊藤、井古田、荻須、佐々木

〒169-8555

東京都新宿区大久保3-4-1

早稲田大学理工学部内55号館9棟2階

電話 03-3203-4141(大代表) 内線73-5252

TEL/FAX 03-3205-9727 (直通)

E-mail waseda-kiyukai@ktb.biglobe.ne.jp

#### WME ニュースレター 第41号

発行元 早稲田機友会編集事務局

佐々木、荻須、石、浜野、真下

印刷 神谷印刷株式会社

〒171-0033 東京都豊島区高田1-6-24